

巻頭のご挨拶

一般社団法人 北海道林産技術普及協会
会長 高橋 範行



会員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。2024年の新春を会員の皆さまとご一緒にお喜び申し上げます。

私ごとになりますが、当協会の会長職に就任したのは2013年、協会創立60周年の年になります。それから10年が経ち、協会会長として創立70周年を迎えることができました。この間、副会長をはじめとする理事の方々、そして何より会員の方々にはさまざまな機会でお支えをいただきました。厚くお礼を申し上げます。

さて、70周年という機会ですので、この10年間の北海道森林産業の動向、そして当協会の取り組みについて、思いつくままにふり返ってみたいと思います。

2013年以降、年による変動はあるものの、道産材供給量は400万 m^3 (2013年) から458万 m^3 (2021年) に増加し、道産木材自給率も55%から68%に上昇しています。同様に、木材・木製品出荷額は1,476億円 (2013年) から1,566億円 (2020年) に、家具・装備品出荷額は362億円から452億円に増加しています。なお、自給率については、自給率を求める際の分母すなわち木材需要量の変動 (2013年・722万 m^3 , 2021年・674万 m^3) の影響にも留意する必要があるのかもしれませんが。一方で、林産試験場の研究結果によりますと、北海道における建築用材の北海道産材自給率は、2010年度の21.7%から、2015年度・21.4%、2019年度・18.3%、2020年度・15.9%と低下し、本州からの移入製品が44%を占めるに至っています。建築用材の総供給量が増えている中で、北海道産建築用材が供給量を増やせていないことが伺われます。2023年の巻頭言で「道内の森林資源を、道内企業が道内での生産に利用し、そして製品は国内、さらには海外で使用する時代」と述べましたが、そのような時代を掴み取るには、一層の努力と工夫が必要なようです。

この10年間の森林産業に大きく影響したのは、2010年の公共建築物等木材利用促進法であったことは衆目の一致するところかと思えます。2021年には木材利用促進の対象を公共建築物から建築物一般に拡大する法改正が行われたことも後押しとなり、道内各地に魅力的な公共・非公共の木造建築物が実現しています。創造性豊かな木造建築物が広がっている証左の一つとして、北海道および北海道建築士会等が主催する赤レンガ建築賞に、2013年～2022年の10年間で5件の木造建築物が、木造+鉄筋コンクリート造建築物を加えると6件が受賞していることをあげてもいいように思います。念のために申し添えますが、赤レンガ建築賞は木造だけを対象としたものではなく、過去にはたとえばRC造のJR旭川駅舎が受賞したこともある賞です。受賞建築物に限らず道内各地で魅力的な木造建築物を見る機会が増えており、北海道における公共建築物の木造化率が14.7% (2013年) から17.8% (2021年) に増加したという数値以上に木造建築物の広がりを感じています。

道内で建設されている木造中大規模建物についてはウッドエイジでもたびたび取り上げているところです。また、総会記念講演会でも、中大規模建物の木質化、木造化を主題とする次のような話題を提供してきました。2017年「建築における木材の有効利用を考える」、2019年「都心における建物への木材利用—みなとモデルが繋ぐ都市と森—」、2021年「中高層建築物で木材を使う～木のイノベーションで森とまちの未来をつくる～」、2023年「脱炭素化に貢献する森林・木材・建築にわたる研究開発と事業展開」。幸い、毎回多くの方々にご参加・ご聴講をいただけてきました。これからも、このような情報提供や講演会を企画していきたいと考えています。

1953年9月に創立された当協会の創立50周年記念式典は2003年、創立60周年記念式典は2013年に行っています。このような経緯からしますと、創立70周年式典は2023年に行うのが順当だったのかも知れません。ですが、コロナによる会合の制約、および昨年巻頭で述べた70周年記念事業として実施する研究事業の成果を会員の皆さまと分かち合いたいという思いから、今年2024年の4月に行います。記念式典の核となる講演会は、創立70周年記念事業として林産試験場に委託した研究課題「道内広葉樹資源の流通動向調査と製材用途の利用拡大に向けた中径木の材質評価」の成果を、課題を担当した研究者に披露していただく場となります。充実した成果が得られているように聞いていますので、たのしみにしたいと思います。なお、これまでの3年間の講演会はオンラインで実施しましたが、今回は創立記念式も兼ね、会場開催を予定しています。会員の皆さまにお目にかかれることをたのしみしておりますので、ぜひご参加ください。

当協会は今年も林産試験場と企業の架け橋として、木材加工技術の向上とその普及に向けた活動を進めて参ります。皆さまのご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。